

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102955		
法人名	医療法人 松岡整形外科		
事業所名	グループホーム たいさんじ		
所在地	松山市太山寺町950-7		(電話) 089-978-5517
管理者	白石かおり		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 11 月 1 日	評価確定日	平成 20 年 1 月 9 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 5 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 5 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	名	要介護 2	5 名
要介護 3	3 名	要介護 4	6 名
要介護 5	4 名	要支援 2	名
年齢	平均 85.27 歳	最低 58 歳	最高 100 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田んぼが広がる農村地帯の一角、小学校の通学道に面して建ち、閑静な環境の中で、朝夕元気な子供たちの声が聞かれ、利用者に元気をもたらしている。運営者はホーム運営に関して毎月1回の全体会議を持ち、現場の状況を把握し、職員の研修や学習会参加に費用援助をするなど積極的に奨励し、ホームの質の向上を図っている。職員同士は和気藹々と明るく、異動や離職も殆どなく、利用者との馴染みの関係が築かれ、家族にとっても安心である。介護計画はセンター方式の「できること、わかること」を取り入れ具体的なプランを立てている。毎月避難

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
評価結果を活かしてトイレ誘導の声かけの工夫や居室への持ち込みなど、具体的な改善を行っている。改善状況や結果を記録し、計画的・継続的に改善していくためにも改善計画書の作成を期待する。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員全員が自己評価に取り組み、それらを全員で話し合っまとめ、作成している。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
2か月ごとに開催し、市職員、地域代表、運営法人職員らが参加し、利用者とその家族とともに会議を持ち、議題にホームの活動紹介、認知症について、災害対策などを挙げ、外部及び自己評価結果を公表し、参加者から意見を出してもらって運営に活かし質の向上を図っている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の訪問時や年2回の利用者・家族との集まりで意見や要望が出され、運営に反映している。重要事項説明書に苦情相談窓口となる公的機関等の明記を望む。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
近隣のスーパーでの買い物の際に店員や地域の人々と挨拶を交わしたり、ホームでの生活の様子を話したりと親しく交流している。また、校区内の小学校の総合学習の受け入れ、運動会への参加、神輿に来てもらうなど町内の祭りへの参加など、地域の人々との交流を積極的に図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームたいさんじ
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	白石 かおり
評価完了日	平成 19 年 8 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者主体の理念を作成している。	※	地域密着型の理念を作成中である。
			(外部評価) 従来の理念を見直し、地域密着型サービスの意義を確認した上で職員全員で協議し、地域密着型のホームとしての役割を盛り込んだ新たな理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 事業所の入り口に表示、出勤時に必ず目を通す。理念を共有し、ミーティングや申し送り時に、小さなことでも話し合いの機会をもっている。	※	毎日の申し送り時、日々のケア実践時にも確認し合っていく。
			(外部評価) 従来の理念に加えられた地域との関係性の大切さを再確認し、ミーティングで話し合い、その実践に向けて取り組んでいる。基本理念を玄関に掲げているが、それぞれのユニットの具体的目標や方針が見られない。	※	理念を具現化する具体的目標をユニットごとに職員間で共有し、目標に沿ったケアに取り組むことを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会、面会時に話している。理念はホームの入口の壁に表示しており、来客者にも解りやすくしてある。	※	運営推進会議や家族会、面会時に話している。理念はホーム入り口の壁に表示しており、来客者にも解りやすくしてある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームの前が通学路になっているので、学校帰りの子供たちを見守り、「お帰り。」と声掛け、近所のスーパーに利用者と買い物へ行き、日常的な付き合いができるように努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 小学校の総合学習を受け入れ、交流している。少人数ではあるが、地域の運動会やバザーに参加している。 (外部評価) 小学校の総合学習の訪問を受け入れたり、運動会に参加し交流している。また、公民館長から情報ももらって町内の祭りに参加するなど、地域の人々との交流に努めている。	※	地域が主催する行事へ参加する機会を増やしていく。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) グループホームが、介護について気軽に話や相談ができる場所になるよう、運営推進会議で話をしている。	※	ホームの役割について、運営推進会議での協議を重ねていく。たいさんじ通信でも地域に呼びかけていく。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価、を職員全員で行い、外部評価の結果を報告し、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 日々のケアを振り返りながら自己評価を職員全員で作成している。外部評価結果を受けて、トイレ誘導の声かけは利用者の誇りやプライバシーに配慮し、居室への持ち込みの奨励などについて改善に取り組んでいるが、改善状況や結果は記録に残していない。	※	評価の状況と結果を記録し、計画的・継続的に改善していくためにも改善計画表の作成を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出された提案や検討事項の経過報告をしている。	※	サービス向上にむけて、活発な意見交換ができるよう、会議の内容や進行を検討していく。
			(外部評価) 市職員、公民館長、運営法人職員、利用者とその家族らを招き2か月ごとに開催している。議題に行事や運営の報告、認知症について、自己及び外部評価結果の公表などをあげ、参加者から意見や要望をもらったり質問を受け、それらをサービスの向上に活かしている。	※	利用者の状態やメンバーの参加しやすさにも配慮し、地域住民に周知するためにも、近所の公民館を開催場所の候補の一つに考えてみるなどの検討を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市が主催する連絡会に出席している。	※	連絡会以外でも行き来する機会を増やしていく。
			(外部評価) 書類申請等で出向いてはいるが、行き来する関係づくりはできていない。	※	ホームの課題や問題を市町村担当者に相談したり、ホーム見学をして貰うなどして行き来する関係を築くことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等には参加し、理解に努めている。現在、活用している方はいない。	※	職員が制度を十分に理解をする為、事例のあるわかりやすい資料を作成し、ミーティング等で成年後見制度についての勉強会を行なう。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング・申し送り時に、スタッフ間で話し合い対応や声掛けに注意をし、虐待防止の徹底に取り組んでいる。	※	虐待が無いが、日々職員で確認し合い、繰り返しミーティング時に全員で話し合っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて、丁寧に説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の話をじっくり聞き、暮らしに活かせるようにしている。運営推進会議に出席してもらってはいるが、発言等が少ない。	※	会議の中で利用者が発言できるように、サポートをする。利用者の意見を代弁する。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の来訪時には声を掛け、状況を報告し、状態変化時にも、随時連絡を取り合っている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態などを家族の訪問時や季刊誌を送付して伝えている。また、金銭出納帳の報告とレシートのコピーを渡し、定期的に報告しているが、金銭出納帳の支出項目がやや分かりにくい。	※	金銭出納帳の支出内容について、店舗名ではなく購入商品名を記入するなど、わかりやすい記録を望む。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会で話し合ったり、面会時に話を聞いたりしている。運営推進会議に出席してもらい、また、そこで報告もしている。 (外部評価) 年2回の家族の集りや運営推進会議参加の家族らから意見や要望が出され、それらを運営に反映させている。重要事項説明書に苦情相談窓口としてホーム内の窓口は記載があるが、公的機関名が記されていない。	※ ※	家族の方全員に、家族会報告書を配布し、会への参加を呼びかけている。 訪問時や会議開催時などに意見や不満、要望が聞けるよう、更なる働きかけを期待する。苦情相談窓口には公的機関も明記することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで話し合い、職員の意見、提案を聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の暮らしに応じたローテーションを組んでいる。管理者は通常のシフトには入らず、夜間や緊急時には対応する体制を取っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 移動・離職や新しい職員が入ってくる時は、引継ぎの面で最善の努力をしている。 (外部評価) 管理者や職員同士の人間関係は良好であり、ユニット間の異動が主で離職はほとんどなく、管理者の退職による交代も職員からの昇格で、ダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外での研修にはなるべく受講できるようにしている。 (外部評価) 研修一覧ファイルに研修情報を蓄積し、意欲のある職員がいつでも参加できるよう奨励し、運営者が費用を負担している。管理者と職員は県及び市社会福祉協議会等の研修に参加し、ミーティングで内容報告をして全員で共有している。	※	受講する職員が偏っている。全ての職員が受講できるように、支援していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県連絡協議会主催の研修に参加し、交流する機会を作っている。相互評価事業に参加をしている。 (外部評価) 外部研修で他事業所との情報交換をしている。以前、他事業所との交流・研修を行っていたが、現在は中止している。	※	他事業所との交流を再開し、地域のグループホームとネットワークを結び、交流や研修、勉強会を行い、地域におけるグループホーム相互の質の向上を図ることが望まれる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 忘年会等を行ったり、日常の勤務時間帯には、一時間の休憩が取れるように配慮している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、たびたび現場に来ている。職員の資格取得への支援を行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用相談があった時は、本人に会い話を聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ゆっくり時間をかけ、話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談内容により、必要な支援を提案している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学に来てもらうように話しているが、すぐ利用の場合が多いので、家族や知り合いなど面会に来てもらえるようにしている。 <hr/> (外部評価) 運営法人が経営する医療機関から入居することもあり、利用前に家族や関係者にホームに来てもらっている。職員が訪問して利用者や家族から聞き取りしたり、利用者本人がホームを見学するなど実施されていない。	※	職員が利用者宅を訪問し、利用者と徐々に馴染みの関係を築きながら利用につなげることを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事の支度・掃除・洗濯・片付け等、日常生活において支え合う関係を築くよう取り組んでいる。昔ながらの習慣・慣わし等を教えてもらっている。 <hr/> (外部評価) 食事の準備を一緒にする、地域の行事や祭りに関するノウハウを教えてもらう、などのことを通して支え合う関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の思いや、やりたい事に耳をかたむけ家族の方に報告・相談し協力しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の方それぞれの事情を踏まえ、本人の日頃の状態を報告・相談し、本人と家族のよりよい関係を支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合いの人にはホームへ来てもらえるようにしている。利用者が出かける機会が少ない。	※	利用者一人一人の馴染みの場所を把握し、家族と相談し、出かけるようにしていく。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) その時の利用者の状況や、利用者同士の関係を把握し、交流ができるように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了しても、時々訪ねている。	※	行事への招待など、相談しながら行っていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の思いを把握できるよう、体調等に配慮し希望に添うように検討している。 (外部評価) 食事中など何気ない日々の会話の中から希望や意向を把握し、把握が困難な場合は職員の思い込みや意見で決めないで、相談していくつかの選択肢を考え、利用者本位になるよう多様な対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者に生活歴を聞いているが、家族の面会時にたずねたり本人から聞いたりし、把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 行動や言動から、一人一人の生活のリズムを理解し一日の暮らしの把握をしている。	※	時間帯や天気などによって、状況の変化などがあるので気をつけていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いや、家族の要望を聴き、スタッフで話し合い、利用者本意の介護計画を作成している。 (外部評価) アセスメントを基に、センター方式を取り入れ、ミーティングで相談、協議したうえで、それらを反映した個別の介護計画を作成している。	※	見直し時にカンファレンスを開き、本人と家族の意見を取り入れ、介護計画の作成をしている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 三ヶ月に一度見直しを行い、急な出来事等があれば、カンファレンスを開き話し合いの場を設けている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに対して正副担当を決め、本人の思いや家族の意見とともにミーティングで話し合い、定期的及び変化に応じて見直しをしている。見直し期間は3か月毎であるが、急変時の介護計画が間に合っていない場合もある。	※ ※	実情に即した介護計画を作成していく。 職員間で共有するためにも見直した新たな計画を介護計画書に記録することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 身体的状況の記録は、個別の生活記録に記入し、申し送りノートも活用し、情報の共有をしている。	※	日中のエピソード等の記録をもっと記入していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて通院や送迎の支援をしている。 (外部評価) 歯科、内科受診同行など、本人や家族の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議開催で、地域の方と意見を交わすことが増え、地域活動への参加に向け話をしている。	※	今の状況を更に密にし、地域の方の協力を得ながら支援をしていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向や必要性に応じ、訪問理美容や訪問歯科を利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、交流に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を大切にし、かかりつけ医と連携をとり、医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) 本人と家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診に同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診記録を保管しているが十分な整理がなされていない。	※	かかりつけ医と事業所との関係を築き、利用者の健康状態を把握するために、受診記録を受診ファイルに保管し、家族と情報交換することが求められる。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療病院等で認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師を配置している。微妙な変化を早期に見つけ看護職員と介護職員が報告・相談しながら、日常の健康管理をしている。	※	事業所の母体病院との連携を更に強化していく。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、度々見舞いに行き、本人・家族・病院関係者と情報を交換し、相談をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状態が変化した時は、家族に看取りについての指針を説明し、希望を文書で確認している。また、状態が変わる度に、家族の希望・思いを確認する。 (外部評価) 利用者の状態の変化に応じて家族と話し合い、終末期の看取りについて方針を共有しているが、入居時の早い段階からの本人及び家族との話し合いはしていない。マニュアルは作成しているが、全職員には周知されていない。	※	重度化や終末期の看取りについて、入居時など早い段階から本人や家族、関係者らと話し合い、かかりつけ医と相談し、全員で方針を共有することが望まれる。また、職員全員が理解し、ケアのあり方を統一できるよう、マニュアルの学習が求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人・家族の意思を確認し、ホームでできることと・できないことを見極め、納得した最期を迎えられるよう体制を整えている。	※	現在、ホームで最後を迎えた利用者はいない。終末期ケアについて職員と話し合い、勉強会を開催して行く。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホームから別の居所に移る場合は、本人の情報資料を作成し、伝達をしている。また、住み替え後も連絡を取るようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティングや日々のケアを行う際に話し合っているが、まだ不十分である。 (外部評価) 職員はミーティングでプライバシー確保の重要性を話し合い、日々のケアにおいて、プライバシーを損ねないように声かけや対応に気をつけている。	※	人と人との関わり、目上の人への尊いについて職員全体で話し合っていく。馴染みの関係が、馴れ合いにならない様にしていく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の世界の話をじっくり聞き支援している。	※	利用者がどうしたいかを、言いやすい環境を作っていく。利用者の発する言葉・表情・動きの奥には、どんな思いがあるのか基本にし支援していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切に、状態や思いに配慮しながら支援している。 (外部評価) 1日の流れの中で一人ひとりのペースを大切に、その日の状態に配慮し、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望により、地域の理美容店を利用し、出かけるのが困難な方は、訪問理美容を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方と共に調理を行い、困難な方は、側で調理の様子を見てもらっている。食事が終わった後は、自分の食器を重ねたりして片付けている。 (外部評価) 調理の下ごしらえや配膳、後片付けなどできることを一緒にして、一緒に食卓を囲み、食事を楽めるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒が好きな方は、入浴後にビールを飲んでいる。自分が食べたい物を一緒に買いに行っている。家族からの差し入れを楽しみにしている。体調にあわせ、飲みすぎ・食べすぎに気を配り、居室に食べ物を置いている方には、傷んでいないか確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、本人に合わせた支援をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 昼間の入浴ではあるが、本人の希望や状況に合わせて支援している。 (外部評価) 入浴時間は午後になっている。声かけの仕方や担当者を変えるなど工夫して、利用者の入浴支援をしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は本人の体調や状況により数時間休息を取るようにしている。室温・衣服の調整、眠中の体位にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々の役割や好きなこと（戦争体験の語り・歌・草引き等）をし、過ごせるよう支援している。 (外部評価) 料理の得意な利用者には調理の手伝い、その他洗濯物たたみや洗面台洗いなど役割を担ってもらったり、運営推進会議で利用者代表で挨拶をしたり、来訪の小学生に戦争体験を話したりと、生活歴や力を活かせる楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は、事業所で行っているが、希望のある数名の方は、小額を自分で持ち買い物等を行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 利用者からの希望はあまり無いので声掛けをし、積極的に出かけるよう支援している。 (外部評価) 一人ひとりの希望に添って、毎日の散歩や近くのスーパーへの買い物、ドライブ等戸外に出かけられるよう支援している。時々外食も計画し、公園で食事するなど外気に触れる機会を図っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に数回家族と一緒に食事に行っている。それぞれが希望する場所に行く機会は少ない。	※	本人が、行きたい気持ちや場所「を把握し家族に伝え相談・検討していく。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望する方は、電話を自由に使っている。家族や知人からの電話を取りついでりしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会に来られた方には、笑顔で明るく挨拶をし入りやすい雰囲気作りをしている。部屋やリビングで、ゆっくり出来るように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況により、やむをえない場合にかぎり、家族に説明し同意を得ている。経過を観察し見直しを行い、拘束が無いように努めている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、鍵をかけず出入り自由になっている。 (外部評価) 日中は鍵をかけず、利用者の外出傾向等を把握しながら職員同士が連携して見守るなど、安全を確認している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者の過ごす場所で記録等を行い、所在や様子を把握し、安全に努めている。自室で過ごしている方は、時々声掛けをし、見守りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じ、本人所持をしたり事務所で預かったりしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 食事の形態は、本人の状況に応じて変えている。また、危険を早めに察知し事故の防止に取り組んでいる。	※	常に事故が起こるかもしれないというアンテナを張りめぐらせ、インシデントの内容を職員全員が共有し、事故防止の取り組んでいく。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時対応のマニュアルはあるが、定期的な勉強会は滞っている。	※	定期ミーティング時に行っていく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い災害に備えている。 (外部評価) 定期的な防火、避難訓練と毎月の避難訓練及び夜間想定避難訓練を行い、適切な避難ができるように日頃から気をつけているが、まだ近隣住民の協力体制は得られていない。	※ ※	利用者と一緒に避難訓練（夜間想定を含む）を入居者を一緒に月一回ではなく、度々行っていく。 運営推進会議等を通じて災害時に備えて地域住民の協力を得られよう働きかけるなど、積極的な取組みを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 家族に、考えられるリスクについて説明し、自由な暮らしについて話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 通常の状態を知り、体調変化の早期発見に努め、看護師・医師に報告する。場合によっては病院受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人別に薬の説明書をとじ、いつでも見れるようにし、確認をしている。	※	薬の変更時は、速やかに職員全員が理解できるように、申し送りを徹底していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便状況・水分摂取の量を日々確認し、また、献立に繊維質や乳製品の多いものを取り入れている。	※	個々の状況に応じ、身体を動かす工夫をしていく。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声掛けを行い、必要な方は介助を行っている。週二回 職員が義歯を預かり、一晚洗浄を行っている。	※	自ら歯磨きを行わない方にも、声掛けを続けていく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の状況に合わせた、水分・食事・塩分を把握し、摂取できるように支援している。 (外部評価) 食事・水分摂取量を記録し、一日を通じて確保できるよう努め、水分摂取が困難な利用者には折を見て白湯、ジュース、ゼリーを勧める等、状態や習慣に応じた支援をしている。献立は職員が立て、バランスよく味付けも薄味でメリハリがあるが、カロリーは把握されていない。	※	摂取カロリーや栄養バランス等については、定期的に栄養士等による専門的チェックを受けることを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防対策のマニュアルを作成している。手洗い・うがいの励行。利用者・職員共に予防接種を行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日買い物に行き、新鮮な食材を使用している。食材の残りは、状態を確認し冷凍したり処分している。冷蔵庫・流し台等の清潔に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに椅子や、プランターを置き、工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所からは料理を作る音や臭いがし、夏には簾を掛けたり季節感を取り入れている。 (外部評価) 広い庭に面した明るい居間があり、居間と台所は程よい広さで利用者がくつろげる。常に利用者、職員の姿が間近に見え、話し声や調理の音が聞こえ生活感があり、居心地良い共有空間である。2階への階段と手すり部分の清掃が行き届いてなく、また、トイレのタオルが汚れているので、清潔感に欠ける。	※	ホーム内を清潔に維持・管理することについては常に緊張感を持って配慮することが求められる。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓やリビング、和室等の個々が好む場所を把握しており、思い思い過ごせるよう配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者により、使い慣れた物や家具を持ち込み使用している。 (外部評価) カーテンは防火用のもので統一しているが、居室入口の暖簾はそれぞれの好みを取り入れ、居室内には鏡台、整理ダンス、テレビなどを置き、また、手芸品や家族及び本人の写真を活かして、個性的に居心地よく過ごせるよう工夫している。	※	家具等の持ち込みが少ない方は家族と相談し検討をしていく。また今の本人が好む物を把握し、配置していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 掃除のときなど随時換気し、利用者の状態や仕草に応じ微妙な調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差をなくし、廊下や入り口を広く取り、動きやすくしている。トイレは、車椅子・ウオーカーのままで入れるスペースにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室には名札をかけ、解りやすくしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関や屋根つき駐輪所に長椅子を置き、涼んだり景色をながめたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者とは何気ない会話をし、言葉や表情の中から思いを判断できる事も多いが、すべてを把握していく為に時間をかけて、少しずつ掴んでいきたい。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつを一緒に取ったり、リビングでテレビを見たりし会話を楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	新聞や本を読んだり、散歩に出たりしている。一人一人のペースを把握し、居場所も確保できている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常の会話や、一緒に調理・掃除・洗濯等を行うときには、生き生きとした笑顔が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の状況等にもよるが、近くの美容室やスーパーに一人で行く方もいる。また、職員と近くのスーパーへ買い物に出かける方もいる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれのかかり付け医があり、ホームに看護師を配置し、異常の早期発見に努め、協力医療機関等と連携をとっている。緊急時には、母体の医師がすぐに駆けつけてくれるようになっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時々状況や要望により、判断を行い安心して暮らせるように、常に考えながら支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時等、利用者の近況や日常生活について、相談・報告をしている。家族会で、意見や要望を聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	家族以外の訪問は少ない。たまに、学校帰りの小学生が寄ってくれるが、利用者の知人や、地域の方にもっと来ていただけるように取り組んでいきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議には必ず、公民館長・民生委員の方に出席していただき、グループホームのサービス内容を理解してもらっている。地域行事への招待もしてもらっている。スーパーの店員さんに、「今日はひとりですか？」と声を掛けてもらっている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員一人一人の良いところを引き出し、失敗もあるが日々努力をし、明るく働けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	嫌な事は嫌だと訴えられる方が多い、言葉に出来ない方は、全身で訴える、嬉しいとき・楽しいときは、大きな声で歌ってくれる。「ありがとう」の言葉もよくもらえる。ほぼ満足していただいていると思うが共同生活の中で我慢をしていることもあると思うので、少しずつでも解消できるよう取り組み
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会に来られた時等に「いつもお世話になります、よろしくお願ひします。」と声をかけてくれるが、その言葉に満足せずさらに家族の理解に努め、満足していただけるような関わりを持ちたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- 利用者の方の「感情を閉じ込めない」という事を大切に、笑ったり・泣いたり・怒ったりといった感情を自由に出せるような環境の提供に心がけている。
- 同じ空間で共に過ごし、教え教えられ・支え支えられる関係を大事にしている。
- 田園の中にあり、静かな環境。近くにスーパーや団地があり、ホームの前が通学路になっている。
- 小学校との交流もあり、学校帰りに気軽に立ち寄っている。
- 心身状況の観察を行い、異常の早期発見をし医療関係者へ迅速に連絡を取り、重度化の阻止、及び早期治療に努めている。
- 家族・地域の方と協力しあい、利用者の方の暮らしを支えている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームたいさんじ
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	白石 かおり
評価完了日	平成 19 年 8 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者と一緒にたいさんじ独自の理念を作っているが、地域の中で暮らし続け支える内容が入っていない。 (外部評価) 従来の理念を見直し、地域密着型サービスの意義を確認した上で職員全員で協議し、地域密着型のホームとしての役割を盛り込んだ新たな理念を作成している。	※	利用者・職員と話し合い新しい理念を作成中である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ミーティング等で話し合っている。 (外部評価) 従来の理念に加えられた地域との関係性の大切さを再確認し、ミーティングで話し合い、その実践に向けて取り組んでいる。基本理念を玄関に掲げているが、それぞれのユニットの具体的目標や方針が見られない。	※	毎日の申し送り時、日々のケア実践時にも確認し合っていく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会、面会時に話している。	※	発行しているたいさんじ通信を活用し、地域の方にも理解してもらえよう、地域にも配っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 買い物、散歩時にあいさつをしている。小学生が、雨宿りなど学校帰りに立ち寄っている。	※	近所つきあいが深まるよう、日常的に外へ出て交流をしていく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 小学校の総合学習を受け入れ、交流している。 (外部評価) 小学校の総合学習の訪問を受け入れたり、運動会に参加し交流している。また、公民館長から情報ももらって町内の祭りに参加するなど、地域の人々との交流に努めている。	※	地域が主催する行事へ参加する機会を増やしていく。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) グループホームが、介護について気軽に話や相談ができる場所になるよう、運営推進会議で話をしている。	※	ホームの役割について、運営推進会議での協議を重ねていく。たいさんじ通信でも地域に呼びかけていく。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果を報告し、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 日々のケアを振り返りながら自己評価を職員全員で作成している。外部評価結果を受けて、トイレ誘導の声かけは利用者の誇りやプライバシーに配慮し、居室への持ち込みの奨励などについて改善に取り組んでいるが、改善状況や結果は記録に残していない。	※	評価の状況と結果を記録し、計画的・継続的に改善していくためにも改善計画表の作成を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出された提案や検討事項の経過報告をしている。	※	サービスの向上にむけて、活発な意見交換ができるよう、会議の内容や進行を検討していく。
			(外部評価) 市職員、公民館長、運営法人職員、利用者とその家族らを招き2か月ごとに開催している。議題に行事や運営の報告、認知症について、自己及び外部評価結果の公表などをあげ、参加者から意見や要望をもらったり質問を受け、それらをサービスの向上に活かしている。	※	利用者の状態やメンバーの参加しやすさにも配慮し、地域住民に周知するためにも、近所の公民館を開催場所の候補の一つに考えてみるなどの検討を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市が主催する連絡会に出席している。	※	連絡会以外でも行き来する機会を増やしていく。
			(外部評価) 書類申請等で出向いてはいるが、行き来する関係づくりはできていない。	※	ホームの課題や問題を市町担当者に相談したり、ホーム見学をして貰うなどして行き来する関係を築くことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修には参加し、理解に努めている。現在、活用している方はいない。	※	職員が制度を十分に理解をする為、事例のあるわかりやすい資料を作成し、ミーティング等で成年後見制度についての勉強会を行なう。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング・申し送り時に職員間で話し合い、虐待防止の徹底に取り組んでいる。	※	利用者にとって何が不快なのか、また虐待がないか、日々繰り返し職員間で確認し合っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて丁寧に説明をしている。また、質問等はいつでも対応するようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の話をじっくり聴き、暮らしに活かせるよう取り組んでいる。運営推進会議に出席してもらっている。	※	利用者が、会議で話ができるようにサポートをしていく。利用者の思いを代弁していく。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の来訪時には、近況報告や出納帳の提示をし、電話での連絡も随時行なっている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態などを家族の訪問時や季刊誌を送付して伝えている。また、金銭出納帳の報告とレシートのコピーを渡し、定期的に報告しているが、金銭出納帳の支出項目がやや分かりにくい。	※	金銭出納帳の支出内容について、店舗名ではなく購入商品名を記入するなど、わかりやすい記録を望む。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を開催し意見を聴いている。運営推進会議にも出席してもらっている。 (外部評価) 年2回の家族の集りや運営推進会議参加の家族らから意見や要望が出され、それらを運営に反映させている。重要事項説明書に苦情相談窓口としてホーム内の窓口は記載があるが、公的機関名が記されていない。	※ ※	家族会の開催後に内容を共有の目的で、報告書を作成し家族に配布している。更に多くの思いや意見をもらえるようにしていく。 訪問時や会議開催時などに意見や不満、要望が聞けるよう、更なる働きかけを期待する。苦情相談窓口には公的機関も明記することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の暮らしに応じたローテーションを組んでいる。管理者は、通常のシフトには入れず、夜間や緊急時には対応する体制をとっている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 移動・離職や新しい職員が入って来る時は、引継ぎの面で最善の努力をしている。 (外部評価) 管理者や職員同士の人間関係は良好であり、ユニット間の異動が主で離職はほとんどなく、管理者の退職による交代も職員からの昇格で、ダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外での研修にはなるべく受講できるようにしている。 (外部評価) 研修一覧ファイルに研修情報を蓄積し、意欲のある職員がいつでも参加できるよう奨励し、運営者が費用を負担している。管理者と職員は県及び市社会福祉協議会等の研修に参加し、ミーティングで内容報告をして全員で共有している。	※	受講する職員が偏っている。全ての職員が受講できるように、支援をしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県連絡協議会主催の研修に参加し、交流する機会を作っている。相互評価事業に参加をしている。 (外部評価) 外部研修で他事業所との情報交換をしている。以前、他事業所との交流・研修を行っていたが、現在は中止している。	※	他事業所との交流を再開し、地域のグループホームとネットワークを結び、交流や研修、勉強会を行い、地域におけるグループホーム相互の質の向上を図ることが望まれる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 広くはないが、休憩室を確保し、一時間の休憩がとれるようになっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、たびたび現場に来ている。職員の資格取得への支援を行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用相談があったときは、本人に会い話を聴くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ゆっくり時間をかけ、話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談内容により、必要な支援を提案している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学に来てもらうように話しをしているが、すぐ利用の場合が多いので、家族や知り合いなど面会に来てもらうようにしている。 (外部評価) 運営法人が経営する医療機関から入居することもあり、利用前に家族や関係者にホームに来てもらっている。職員が訪問して利用者や家族から聞き取りしたり、利用者本人がホームを見学するなど実施されていない。	※	職員が利用者宅を訪問し、利用者と徐々に馴染みの関係を築きながら利用につなげることを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、支えあう関係を築くよう取り組んでいる。教えてもらう場が少ない。 (外部評価) 食事の準備を一緒にする、地域の行事や祭りに関するノウハウを教えてもらう、などのことを通して支えあう関係を築いている。	※	さらに、本人の不安や苦しみ思いに寄り添い、一緒にできる事を見つけ、互いに支えあう関係を築いていく。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 現在の本人の様子や昔のこと等、家族と情報を共有し、ホーム・家族の役割を相談しながら協力して、本人を支えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時には、家族と一緒に過ごせるよう配慮している。行事案内をし家族へ参加を呼びかけている。必要物品など家族と相談し、可能な限り家族に持ってきてもらっている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合いの人にはホームへ来てもらうようにしている。利用者が出かける機会が少ない。	※	利用者一人一人の馴染みの場所を把握し、家族と相談し、出かけるようにしていく。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 気の合う利用者同士と一緒に座ったり会話ができる場所や環境を作っている。気まづくなったときは、職員が仲裁に入っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了しても、時々訪ねている。	※	行事への招待など、相談しながら行っていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の話聞き、思いを知ろうと取り組んではいるが、介護側の決め付けになっているときがある。 (外部評価) 食事中など何気ない日々の会話の中から希望や意向を把握し、把握が困難な場合は職員の思い込みや意見で決めないで、相談していくつかの選択肢を考え、利用者本位になるよう多様な対応に努めている。	※	利用者の話をじっくり聴く。「本人はどう思っているのか、どうしたいのか」の視点で話し合っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前に生活歴を聞いているが、家族の面会時にたずねたり本人から聞いたりし、把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活のリズム・習慣を確認している。表情を観察し、心身状態を把握するようにしている。	※	季節・天気・時間によっての心身状態変化を察知していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の思いを反映する介護計画を作成している。カンファレンスの開催回数・参加人数が少ない。 (外部評価) アセスメントを基に、センター方式を取り入れ、ミーティングで相談、協議したうえで、それらを反映した個別の介護計画を作成している。	※	家族の面会時に、本人の暮らしについて話し合い意見を聴く。カンファレンスの開催を頻回に行う。ミーティング時にもカンファレンスを行う。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じての見直しは行っているが、状態変化時の新たな計画作成が間に合っていない。 (外部評価) 利用者一人ひとりに対して正副担当者を決め、本人の思いや家族の意見とともにミーティングで話し合い、定期的及び変化に応じて見直しをしている。見直し期間は3か月毎であるが、急変時の介護計画が間に合っていない場合もある。	※ ※	実情に即した介護計画を作成していく。 職員間で共有するためにも見直した新たな計画を介護計画書に記録することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の生活記録に身体状況や暮らしの様子を記録し、情報の共有を行い、介護計画の見直しに取り組んでいる。	※	夜間に比べ、日中の本人の言葉やエピソード記録が少ないので記録をし、情報の共有を行い介護計画に活かしてしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて通院や送迎の支援をしている。 (外部評価) 歯科、内科受診同行など、本人や家族の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議開催で、地域の方と意見を交わすことが増え、地域活動への参加に向けて話をしている。	※	今の状況を更に密とし、地域の方の協力を得ながら支援をしていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向や必要に応じ、訪問理美容や訪問歯科を利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議には出席してもらい、交流に取り組んでいる。	※	ホームからも地域包括支援センターを訪ね、協同の関係を築いていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の同意でかかりつけ医をきめている。本人・家族が希望する医療機関で受診ができるよう調整・支援を行っている。 (外部評価) 本人と家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診に同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診記録を保管しているが十分な整理がなされていない。	※	かかりつけ医と事業所との関係を築き、利用者の健康状態を把握するために、受診記録を受診ファイルに保管し、家族と情報交換することが求められる。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の人の治療に熱心な医師に相談している。専門医を受診し相談をしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置している。微妙な変化を早期に見つけ、看護職員と介護職員が報告・相談しながら、日常の健康管理をしている。	※	事業所の母体病院との連携を更に強化していく。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、度々見舞いに行き、本人・家族・病院関係者と情報を交換し、相談をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状態が変化した時は、家族に看取りについての指針を説明し、希望を文書で確認している。また、状態が変わる度に、家族の希望・思いを確認するようにしている。 (外部評価) 利用者の状態の変化に応じて家族と話し合い、終末期の看取りについて方針を共有しているが、入居時の早い段階からの本人及び家族との話し合いはしていない。マニュアルは作成しているが、全職員には周知されていない。	※	重度化や終末期の看取りについて、入居時など早い段階から本人や家族、関係者らと話し合い、かかりつけ医と相談し、全員で方針を共有することが望まれる。また、職員全員が理解し、ケアのあり方を統一できるよう、マニュアルの学習が求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人・家族の意思を確認し、ホームでできること・できないことを見極め、納得した最期を迎えられるよう体制を整えている。	※	現在、ホームで最期を迎えた利用者はいない。終末期ケアについて職員と話し合い、勉強会を開催していく。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホームから別の居所へ移る場合は、本人の情報資料を作成し、伝達をしている。また、住み替え後も連絡を取るようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティングや日々のケアを行う際に話し合っているが、全てにおいて出来てはいない。 (外部評価) 職員はミーティングでプライバシー確保の重要性を話し合い、日々のケアにおいて、プライバシーを損ねないように声かけや対応に気をつけている。	※	人と人との関わりや目上の人への敬いについて、職員全体で話し合っていく。馴染みの関係が馴れ合いにならないようにしていく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 話をじっくり聴き、必要な方には紙やボードに書いてもらっている。表出した言葉のみで判断し、表情やしぐさ・所作での意思表示を読み取ることができていない。	※	利用者が、「どうしたいか」言いやすい場面をつくっていく。利用者の発する言葉・表情・動きの奥には必ず思いが存在していることを基本に、支援していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れの中、本人の体調・様子に配慮しているが、業務優先になっている時が少ない。 (外部評価) 1日の流れの中で一人ひとりのペースを大切に、その日の状態に配慮し、希望にそって支援している。	※	利用者が自分のペースで過ごせるよう「思い」に配慮しながら検討し、柔軟に対応していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 着替え時は、なるべく利用者に決めてもらっている。定期的に訪問理美容を利用し、本人の望む髪形にしている。	※	食後の身だしなみ支援の徹底、女性は化粧などおしゃれの支援をしていく。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の力に合わせ準備・片付けを一緒に行っている。利用者の食べたいものを献立に入れている。 (外部評価) 調理の下ごしらえや配膳、後片付けなどできることを一緒にして、一緒に食卓を囲み、食事を楽しめるよう支援している。	※	利用者全員が楽しめるよう検討していく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の食べたいものがあれば、一緒に買い物へ行ったりしている。訪問販売のパン屋も利用している。	※	意思の訴えが少ない方もいる。利用者全員が楽しめるよう検討していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄の間隔を把握し、声掛け・誘導・介助を行っている。個々の状況を観察し本人と相談しながら、紙パンツから布パンツにしている。	※	排泄介助の必要な方が多く、待たせてしまったり気を使わせてしまう時があるので気持ちよく排泄ができるよう支援していく。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴時間は日中の午後となっている。本人の希望を聞き、入浴している。入ろうとしない方には話をし、納得して入浴をしている。 <hr/> (外部評価) 入浴時間は午後になっている。声かけの仕方や担当者を変えるなど工夫して、利用者の入浴支援をしている。	※	身体機能の低下が進んでいる為、安心して入浴ができる環境を整えていく。本人の変化する気持ちに沿う入浴支援を行っていく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、体調や様子をみ、なるべく起きて過ごすよう支援している。自室や和室・それぞれが落ち着く場所で休んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) その人の力が発揮できるよう、得意な事・できる事をしてもらい、感謝の気持ちを伝えている。 <hr/> (外部評価) 料理の得意な利用者には調理の手伝い、その他洗濯物たたみや洗面台洗いなど役割を担ってもらったり、運営推進会議で利用者代表で挨拶をしたり、来訪の小学生に戦争体験を話したりと、生活歴や力を活かせる楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望する方は、家族と相談しお金を持ち、なくならないよう本人と一緒に確認をしている。本人・家族・ホームで話し合い、管理者が付き添って銀行へ行っている。	※	お金を事務所で預かっている方も、買い物時には、自らが支払いするよう支援をしていく。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 季節によっては外出が少ないときはあるが、買い物イベント等で出かけるようにしている。 (外部評価) 一人ひとりの希望に添って、毎日の散歩や近くのスーパーへの買い物、ドライブ等戸外に出かけられるよう支援している。時々外食も計画し、公園で食事するなど外気に触れる機会を図っている。	※	外出する回数が少ない現状である。ドライブや近所への挨拶など、外出する機会を増やしていく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に数回、家族と一緒に食事に行っている。それぞれが希望する場所に行く機会は少ない。	※	本人が、行きたい気持ちや場所を把握し、家族に伝え相談・検討をしていく。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望により電話をかけている。手紙をポストに投函し、返事が来たら本人に手渡している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間は決めていない。いつでも気軽に訪問できるような雰囲気づくりを心がけている。自室や和室でゆっくり過ごせるよう配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況により、家族の同意を得て行っているが、日々経過を観察し、解除に取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、鍵をかけず出入り自由になっている。 (外部評価) 日中は鍵をかけず、利用者の外出傾向等を把握しながら職員同士が連携して見守るなど、安全を確認している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者の過ごす場所で記録を行い、所在や様子を把握し、安全に努めている。自室で過ごしている方は、時々声かけをし見守りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じ、本人所持をしたり事務所で預かったりしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 食事の形態は、本人の状況に応じ変えている。また、危険を早めに察知し事故の防止に取り組んでいる。	※	常に事故が起こるかもしれないというアンテナを張りめぐらせ、インシデントの内容を職員全員が共有し、事故防止に取り組んでいく。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時対応のマニュアルはあるが、定期的な勉強会は滞っている。	※	定期のミーティング時に行っていく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に非難訓練を行い災害に備えている。 (外部評価) 定期的な防火、避難訓練と毎月の避難訓練及び夜間想定避難訓練を行い、適切な避難ができるように日頃から気をつけているが、まだ近隣住民の協力体制は得られていない。	※	利用者と一緒に避難訓練(夜間想定を含む)を、月一回でなく、度々行っていく。 運営推進会議等を通じて災害時に備えて地域住民の協力を得られよう働きかけるなど、積極的な取組みを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 家族に、考えられるリスクについて説明をし、自由な暮らしについて話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日頃の状態を知り、体調変化の早期発見に努め、気付いた時は看護師・医師に報告をし、場合によっては病院受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に薬の説明書ファイルを作り、いつでも確認できるようにしている。薬袋に名前・曜日・時間・病院名を貼り、確認しながら服薬の支援をしている。	※	薬の内容についての把握が十分ではない。処方の変更時は、職員全員が把握するよう口頭・文書での申し送りを徹底する。不確かな時は、説明書を読み確認を行う。薬について勉強会を行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 繊維の多いもの食品等、便通に良い物を献立に取り入れている。水分・排便のチェックを行い個々の状態を把握し、対応をしている。身体を動かす事への働きかけが少ない。	※	個々の状況に応じ、身体を動かす工夫をしていく。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛け・介助を行っている。	※	義歯の磨き残しなど、本人では不十分なところを確認し、支援していく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分摂取を記録し、摂取量が足りない時は、本人の好みや食べやすさを考え、対応をしている。 (外部評価) 食事・水分摂取量を記録し、一日を通じて確保できるよう努め、水分摂取が困難な利用者には折を見て白湯、ジュース、ゼリーを勧める等、状態や習慣に応じた支援をしている。献立は職員が立て、バランスよく味付けも薄味でメリハリがあるが、カロリーは把握されていない。	※	摂取カロリーや栄養バランス等については、定期的に栄養士等による専門的チェックを受けることを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防のマニュアルを作成している。手洗い・うがいの励行、利用者・職員ともにインフルエンザの予防接種を行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日買い物へ行き、新鮮な食材を使用している。食材の残りは、状態を確認し冷凍したり処分をしている。冷蔵庫・流し等の清潔に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関まわりに長椅子やプランターを置き、工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所からは料理を作る音や匂いがし、夏には簾をかけたり季節感を取り入れている。 (外部評価) 広い庭に面した明るい居間があり、居間と台所は程よい広さで利用者がくつろげる。常に利用者、職員の姿が間近に見え、話し声や調理の音が聞こえ生活感があり、居心地良い共有空間である。2階への階段と手すり部分の清掃が行き届いてなく、また、トイレのタオルが汚れているので、清潔感に欠ける。	※	ホーム内を清潔に維持・管理することについては常に緊張感を持って配慮することが求められる。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関・台所・和室・リビング等で思い思いに過ごしたり、気の合う利用者同士と一緒に過ごすよう配慮をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者により、使い慣れた物や家具を持ち込み使用している。 (外部評価) カーテンは防火用のもので統一しているが、居室入口の暖簾はそれぞれの好みを取り入れ、居室内には鏡台、整理ダンス、テレビなどを置き、また、手芸品や家族及び本人の写真を活かして、個性的に居心地よく過ごせるよう工夫している。	※	家具等の持ち込みが少ない方は、家族と相談し検討をしていく。また、今の本人が好む物を把握し、配置をしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) そうじの時など、随時換気をし、利用者の状態や仕草に応じ微妙な調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各所に手すりをつけ床はバリアフリーになっている。洗面台やシンクの高さは一定の為に適さない方もいるので、利用者の状況に応じ備品使用や場所を変える等し環境を整えている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各部屋には、名札や名称をかけ分かりやすくしている。食べ物を見やすいように、食器の色を工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関や屋根つき駐輪場に長椅子を置き、涼んだり景色を眺めたりしている。気候の良い時は、庭でお茶や食事をしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	なかなか意思の疎通がとれず、思いが掴めない時がある。ADLが自立している方への声掛けや会話が少ない。思いを受け取る側も掴む事をあきらめてしまう時がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	以前より、ゆったりと過ごす場面が増えた。一緒に食事をし、食後のコーヒーを楽しみ、野球等のスポーツ観戦をしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	本人が動きたい時に待たせてしまったり、職員のペースで過ごしている時がある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	会話や思い・行動をサポートした時等、笑顔があったりと生き生きされる方もいるが、反対に気を使ったりとそうでない方もいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自ら自由に外へ出て過ごしたり、職員と一緒に目的の店に買い物に行く機会をつくっているが、全ての方が行けるわけではなく、ほとんど出ない方もいる。また、本人の希望する場所が遠方だったり道が険しい等、対応が難しいケースもある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	異常の早期発見に努め、協力医療機関と連携をとっている。緊急時には、事業所の母体である病院の医師がすぐにつける体制をとっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	本人の思いや訴えにその都度対応をしているが、根本的な部分の把握に至らない時がある。本人の心の奥底にはどんな思いがあるのか、職員全員で探り情報を共有し話し合い支援をしていく。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	電話で連絡を取り合ったり、面会時には話しをし、相談や報告を行っているが、ホームに対しての要望・提案・意見を伝えにくい様子がみられる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族以外の方の訪問は少ない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議には、公民館長・民生委員の方に出席して頂き、ホームでの暮らしぶりやサービス内容を報告し、理解・協力をしてもらっている。また、買い物時には店員さんから「今日は一人ですか？」と声をかけてもらっている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士、協力しながら働いているが、腰痛等の故障があったり、認知症ケアを行う上でストレスがたまっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足している部分や場面はあると思うが、全てにおいてとは言えない。利用者全員の思いが把握しきれていない。また、共同生活の良い所もあるが遠慮したり我慢したりの所もある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足している部分や場面はあると思うが、全てにおいてとは言えない。家族より「面倒かけて・・・お世話になります、お願いします。」と言われるが、行き届かない所もあり、本心まで聞けていない。まだまだ家族との信頼関係の築きが足りない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- 利用者の方の「感情を閉じ込めない」という事を大切に、笑ったり・泣いたり・怒ったりといった感情を自由に出せるような環境の提供に心がけている。
- 同じ空間で共に過ごし、教え教えられ・支え支えられる関係を大事にしている。
- 田園の中にあり、静かな環境。近くにスーパーや団地があり、ホームの前が通学路になっている。
- 小学校との交流もあり、学校帰りに気軽に立ち寄っている。
- 利用者の心身状況の観察を行い、異常の早期発見をし医療関係者へ迅速に連絡を取り、重度化の阻止、及び早期治療に努めている。
- 家族・地域の方